

Der Wind

(風)

ドイツ語と私

湘南日独協会 常務理事 中村 茂子

ドイツ語との出会いは音楽を通してだった。高校生の頃、フィッシャー=ディースカウのシューベルト「冬の旅」を何度も聴いた。有名な「菩提樹」ばかりでなく「春の夢」「鳥」など、歌詞は分からぬながら一緒に口ずさんだ。幼いころから音楽が好きで、それまでもベートーベンやモーツアルトの交響曲やコンチェルトをよく聴いた。大学進学時、ドイツ語希望を告げると、父は反対した。英語だ、諸言語で、大事なものは英語に訳されている、学ぶべきは英語である…。今より半世紀ほど前の話である。その信念のもと、父は大版で分厚く百科事典かと見紛うTolstoyの”War and Peace”をくれた。それからも”Anna Karenina”、Dostoyevskyの”Crime and Punishment”…。明治生まれの父は英語が得意で、シェイクスピアの台詞もよく口にし、坪内逍遙に誤訳を手紙で知らせたのが自慢。晩年はアンブローズ・ビアスの翻訳を楽しんでいた。

ドイツ語は未知のまま月日は流れた。

ある日、友人と上野毛へ藤原定家『明月記』の展示を見にでかけた。『明月記』は鎌倉時代の歌人藤原定家の日記である。父はアララギ派歌人でもあったので、歌は常に身近にあった。しかし子規の流れを汲むアララギ派は万葉集を尊ぶ。万葉集に関する本は多々ありながら、古今集からなる八代集に関しては皆無。定家の直筆は興味ぶかかった。ところが、せっかくの国宝が全く読めない。同じ日本人が書いたものが、一文字も読めないとは！ かくして通信制大学に入学する動機は国文学だった。それが、なぜドイツ語に？

通信制大学には夏期に直接講義を受講するスクーリングがある。様々な科目を専門の教授の授業で受講できるのは、暑い最中の通学の苦労にまさる楽しみだった。

湘南日独協会

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in Shonan



事務局：〒251-0025 藤沢市鵠沼石上 1-1-1
江ノ電第2ビル4F

Tel:0466-26-3028 Fax:0466-27-5091

E-mail: jdgsoshonan.official@gmail.com <https://jdgsoshonan.ciao.jp/>

卒論を考えていた年の夏のスクーリング、斎藤太郎教授の「18世紀ドイツの歴史と文化」を聴講した。ある日、先生はゲーテ『ファウスト』第一部の終り部分を朗読なさった。ドイツ語の美しさにいたく感動。この時、国文学はドイツ文学へシフトした。

私には長年、気になる作家がいた。筆名レアンダー、本名リヒャルト・フォン・フォルクマン。メルヘン集『フランス炉辺の幻想』“Träumereien an französischen Kaminen”（邦題『ふしぎなオルガン』）一冊のみ残した作家であり医者だ。先生が、その伝記を探してくださったことから、私のドイツ語学習が始まった。思えば無謀な選択だ。だが学び初めて、良かったことも数えきれない。小さなことでは、フロイトの謎がとけた。以前からフロイトの名前表記Freudは間違っているとしか思えなかった。いい加減に歌っていた『魔笛』のアリアを歌詞を見ながら歌えるようになった。さらにレアンダーの叔母さん、黒い服の「黒おばさん」の童話を訳すことができた。古いドイツ語文字に苦しみながら。

しかし何よりも嬉しいのは、リヒャルト・フォン・フォルクマンの伝記の著者、ドイツ、ハレ市に住のシモーネ・トリーダーさんを訪ね、今日に至るまで文通するなど友情を育むことができたことだ。

外国語を学ぶことは、身近な生活圏からもう一つ別の世界を知って、その世界に遊ぶこと。現在、私はドイツ文学読書会の係をしている。ドイツの北、南、スイスとそれぞれの地方のドイツ語で書かれた文学を読む楽しさを実感しつつ、独和大辞典をくる手の合間にふと古い歌を思い出す。

在原業平「世の中に たえて桜のなかりせば 春の心は のどけからまし」

私「世の中に たえてドイツ語なかりせば しげの心は のどけからまし」

ドイツやっぱり好き、 ドイツ大使主催夏祭りに参加

会員 室賀 みどり

35度を越える猛暑日ドイツ大使公邸で夏まつりに参加しました。参加者は100名ほどで、中高年男性が半数、若い男女と中高年女性がそれぞれ4分の1ほど。

オープニングはペトラ・ジークムント大使のスピーチで、この1年を振り返り、日本への愛着や日独関係をさらに深めたことの思いを語られました。

後日X(旧Twitter)でも今回の写真と共に「日独協会は市民社会において、両国友好の原動力」と発信され、背が高く笑顔が素敵な大使に一瞬で魅了されました。

続いて東原敏昭日独協会会长の挨拶後、別室の扉が開きバイキングがスタート。立食形式で和やかな歓談が続きました。料理は日本人好みにアレンジされたドイツ料理で、前菜、グラーシュ、シュペッツレ、フランクーヘン、白身魚のディルソテー、各種サラダ、黒パンやブレーツェル、懐かしいストロイゼルツヴェッチゲンクーヘン、ケーゼクーヘン、ショコラーデンクーヘンと豪華なメニュー。どれも美味しく大好評。ゆっくり味わえなかつたのが心残りです。



ジークムント大使と歓談

チューリッヒでAIを学ぶ娘さんがおり、2019年の家族旅行以来、日本の温泉にも親しんでいるそうです。なまりのない耳に心地よいドイツ語は、大学で良く知られるハイデルベルク出身ならでは。ご主人は物理を専門とされながらも転職し、現在は大使館公使として楽しむ様子が印象的でした。鎌倉はご存じでも湘南や藤沢はまだとのこと。ぜひ一度湘南日独協会にもお越しくださいとお伝えしてお別れしました。

9月例会

講演「世界を歪める陰謀論・真実と リアリティ(アルゴリズム・AIの危険性)」

講師 林 薫氏 経済学者



高垣 孝氏

寄稿者 会員 高垣 孝

先ず冒頭述べられたのは、1995年頃(WINDOWS 95)以降、それまでの電話・FAX、Telex等のアナログツールから、インターネット、E-mail、大量のデータを使った統計分析等の、公共政策の世界にも変化が起り、データの数値解析等の科学的分析ができるようになり、適切な政策が実施できました。

また世界銀行による情報・知識イニシアティブGDN(Global Development Network)も紹介され、その意義と限界が述べされました。最近はEBPM(Evidence Based Policy Making)から逆に陰謀論が台頭し、USAID(米国国際開発庁)の閉鎖や日本の財務省解体デモなどの具体例を挙げられました。

講演の後半はイスラエル出身の歴史学者Yuval Noah Harariが2024年に書いた世界的ベストセラーNexusに基づき、人間の「認知機能の限界紹介」と「限りない技術進歩」の危険性に言及されました。

概略の内容は、情報には真実もあるが大部分はフィクションあるいはリアリティとして、人と人をつなげるために「物語」という形を取っている。新たな脅威としてSNSなどで拡散する情報の中に、AIが参加することによって、情報は暴走し、社会的意思決定がゆがめられるリスクがあります。

このように人間の認知能力に限界がありながら、AIの脅威を超えて、未来への展望を開くためには、

- ① 人間は誤るものであるということを前提とすること。
- ② 自己修正メカニズムを重視し、維持していくこと。
- ③ 人間を装うAI(ニセ人間)を排除すること。
- ④ SNSのアルゴリズム(手順)やAIの暴走を防がなければならぬ喫緊の課題があること。

を最後に強調されました。

AIの危険性という科学技術的、社会的、倫理的に重い課題を再認識し、世の中がどう変わって行くのかを考えさせられる講演でした。

Bierfest2025

10.11(土) フレンチレストラン Bistro La Chambre で、昨年に引き続き Bierfest が開催されました。当日は生憎の雨模様でしたが、室内は楽しい歌声が溢れ、Bier、Wein、料理で Gemütlich だったとの感想を頂きました。（木原）



(頭を抱えているのは歌とは関係ありません)



☆ ☆ ☆

◆ 藤沢国際フェスト、鎌倉国際フェストは当日の天候が悪く、藤沢は中止、鎌倉でのダンケシェーンの演奏は中止となりました。

ドイツ文学を原語で楽しむ「読書会」案内

Hermann Hesse の Demian で始めた読書会も 6 年となりました。この 12 月からは、Stefan Zweig の短編小説を取り上げています。

第 2 第 4 月曜日 午後 3 時～5 時、藤沢駅北口のミナパークで開いています。

ご興味をお持ちの方は下記へご連絡下さい。

中村茂子 natalie@jcom.zaq.ne.jp

新部会「動画で学ぶ ドイツ映像研究会」第1回

11月9日(日) 題記新部会の第1回目が藤沢商工会館ミナパークにて開催されました。当日は1981年公開の映画『リリー・マルレーン』を題材として取り上げました。はじめに作品について簡単な解説を行い、その後全員に配布されたシーン毎のドイツ語の台詞を手に、作品を視聴しました。終了後、劇中で使用された音楽と「リリー・マルレーン」の原詞、モデルとなつた歌手ララ・アンデルセンほかの実在の人物について、また1942年に横浜港で爆発したドイツ軍艦の生存者が、収容された箱根の旅館でさかんに歌っていたのがリリー・マルレーンであったなどのエピソードも紹介されました。

最後に作品のキーポイントとなる会話を、いくつかドイツ語と字幕訳で取り上げました。参加者からはドイツ語のベルリン訛りや、同じ頃日本の軍隊で流行った歌などについて意見交換がなされました。

次回第2回は12月21日に開催の予定です。ご興味のある方は前日までに次の宛先へご連絡ください。

sean.hoshino@gmail.com (星野)

2026 湘南日独協会・新年会のお知らせ

新しい年を祝い、会員相互の親睦を期して新年会を開催します。皆様どうぞ奮ってご参加ください。

日時：2026年1月25日（日）17:00-19:30

会場：中国料理 紫蘭 藤沢店（さいかや藤沢8F）

参加費：¥6,000／名（飲み物別）

お申し込みは2026/1/12までに同封ハガキまたはE-mailでお願いします。

sean.hoshino@gmail.com (星野)

新入会員紹介：矢次 純 様

寄付金を頂きました：

下條 泰生 様 高橋 善彦 様 寺田 雄介 様

編集後記：

Der Wind がお手元に届く頃、皆さんは毎年繰り返す多忙な年末を楽しんでおられるでしょうか。催し物も多く、一方健康管理にも気を抜けない季節ですね。

今年は5月の合唱団アムゼルのコンサートがあり、11月には新しい「動画で学ぶドイツ」の研究会の発足がありました。出来るだけ多くのプログラムに参加されますよう会員の皆様の新年のご健康をお祈り申し上げます。（大久保）

12月	見て聴いて楽しむ音楽史 (第35回)		
	11日 (木) 14:00-16:00	ミナパーク 302	会費：1,500円
	演題：	美しいバロック音楽 (#2)	
	講師：	高橋善彦氏 (会員 湘南日独協会理事)	
	取り上げる曲：	ヴィヴァルディ「海の嵐」、2本のトランペットの為の協奏曲、バッハ管弦楽組曲第2番他	
	読書会	8日 (月) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
		22日 (月) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	談話室SAS	09日 (火) 17:00-19:00	レストラン (未定) 会費：未定
	ドイツ映像研究	21日 (日) 14:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	見て聴いて楽しむ音楽史 (第36回)		
01月	08日 (木) 14:00-16:00	ミナパーク 302	会費：1,500円
	演題：	美しいモーツアルトとベートーベンの音楽	
	講師：	高橋善彦氏 (会員 湘南日独協会理事)	
	取り上げる曲：	モーツアルト交響曲第40番ト短調KV 550, ベートーベン ヴァイオリン協奏曲第1楽章他	
	読書会	26日 (月) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	談話室SAS	13日 (火) 15:00-17:00	ミナパーク M2 会費：1,000円
	SWZ	15日 (木) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	講演会	25日 (日) 15:00-17:00	ミナパーク 505 会費：1,500円
	演題：	「シャーロック・ホームズ魅力の世界、そのトリックは成立するのか」	
	講師：	田中喜芳氏 (シャーロック・ホームズ研究家、人間行動学博士)	
02月	概要：	世界で100以上の言語に翻訳され、『聖書』に次ぐベストセラーと言われる「ホームズ物語」。作者コナン・ドイルの実情と虚像、「物語」誕生の経緯と作品の魅力。中で使われたトリックは本当に成立するのか。名探偵魅力の世界を堪能します。	
	懇親会：湘南日独協会2026新年会を兼ねて懇親会を開催します。（中国料理『煌蘭』藤沢店にて）		
	見て聴いて楽しむ音楽史 (第37回)		
	12日 (木) 14:00-16:00	ミナパーク 302	会費：1,500円
	演題：	美しいベートーベンの音楽 (#3)	
	講師：	高橋善彦氏 (会員 湘南日独協会理事)	
	取り上げる曲：	ベートーベン交響曲第3番“英雄”，ピアノ協奏曲第5番第2楽章	
	読書会	09日 (月) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	談話室SAS	10日 (火) 15:00-17:00	ミナパーク M1 会費：1,000円
	SWZ	19日 (木) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
03月	ドイツ映像研究	15日 (日) 14:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	講演会	22日 (日) 15:00-17:00	ミナパーク 505 会費：1,500円
	演題：	「船と港―日本の海運と港湾―」	
	講師：	星野 諭氏 (湘南日独協会 常務理事)	
	概要：	日本の海運業は明治以降、国家の発展と歩調を合わせて伸張したが、第二次世界大戦の敗戦と同時にほぼすべての船を失った。戦後の復活も又、日本の高度経済成長と共に成し遂げられ、円高による競争力を克服しながら、今も国際海運市場という完全競争の世界でたみない努力を続けています。こうした海運業の「昔・今・これから」について、「船と港」という視点からお話しさせて頂きます。	
	懇親会：有り		
	見て聴いて楽しむ音楽史 (第38回)		
	12日 (木) 14:00-16:00	ミナパーク 302	会費：1,500円
	演題：	美しいバロック音楽 (#3)	
	講師：	高橋善彦氏 (会員 湘南日独協会理事)	
04月	取り上げる曲：	ヘンデル “水上の音楽”から抜粋、バッハ “プランデンブルグ協奏曲”第5番より他	
	読書会	09日 (月) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
		23日 (月) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	談話室SAS	10日 (火) 15:00-17:00	ミナパーク M2 会費：1,000円
	SWZ	19日 (木) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	ドイツ映像研究	15日 (日) 14:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	講演会	22日 (日) 15:00-17:00	ミナパーク 505 会費：1,500円
	演題：	「19世紀末のウィーンとユダヤ人」	
	講師：	村山 雅人氏 (元國學院大學教授)	
	概要：	「もしユダヤ人の貢献がなかったなら、世紀末ウィーンは断片である」と言われるほど、19世紀末ウィーンの文化にユダヤ人が果たした貢献は大きかった。このユダヤ人の活躍が「反ユダヤ主義」を惹起し、そしてその反動として「政治的シオニズム」が登場する。ユダヤ人国家建設運動は、しかしユダヤ人内部で対立を生みだした。あらゆる舞台で、ユダヤ人が密接に関わって回っていたウィーン社会の実態を政治・社会的視点から紹介する。	
懇親会：有り			
4月の行事は項目のみ記載、詳細は3月に発行予定の次号に掲載予定			
04月	見て聴いて楽しむ音楽史 (第39回)		
	16日 (木) 14:00-16:00	ミナパーク 302	会費：1,500円
	読書会	13日 (月) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
		27日 (月) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	談話室SAS	14日 (火) 15:00-17:00	ミナパーク M2 会費：1,000円
	SWZ	16日 (木) 15:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	ドイツ映像研究	05日 (日) 14:00-17:00	ミナパーク 506 会費：1,000円
	年次総会	26日 (日) 14:00-15:00	ミナパーク 505 会費：1,000円
	講演会	26日 (日) 15:00-17:00	ミナパーク 505 会費：1,500円

参加される皆様へ 準備の都合上、早めにお申込ください。

各催しは変更される場合があります 最新の予定を当協会のホームページでご確認ください。

URL : <https://jdg-shonan.ciao.jp/> 右記のQRコードからもアクセス出来ます